

令和4年度

学校評価

「あきた型学校評価システム」
による各分掌・教科自己評価

秋田県立西仙北高等学校

目 次

分 掌

総務部	1
教務部	2
生徒指導部	3
進路指導部	4
特別活動部	5
保健部	6
図書・視聴覚	7
情報部	8
研修部	9

学年部

1年部	10
2年部	11
3年部	12

教 科

国語科	13
地歴・公民科	14
数学科	15
理科	16
保健体育科	17
芸術科	18
英語科	19
家庭科	20
福祉科	21
商業科	22
情報科	23

評価領域	総務部
------	-----

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 分掌間の連絡調整を図り、儀式や学校行事の円滑な運営を図る。 2 学校関係団体や地域・保護者との連携を図り、情報発信並びに学校運営が適切に機能するように努める。 3 学校安全対策を整備し、防災体制を強化する。
------	---

現 状	<ol style="list-style-type: none"> 1 職員数の減少により、儀式や各種行事における運営体制がより適切に機能するよう配慮が必要となっている。 2 一般会員のPTA活動への参加が少ない。 3 防災教育・安全教育は実践的な取り組みが行われている。
-----	--

具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 儀式や行事の企画段階において運営体制を明確にし、効率的な運営を心がけるとともに、より充実した内容になるよう尽力する。 2 PTAの主体的な活動を促し、参加者が増えるような活動を行う。また、学校の情報をHPや「西高だより」「PTA活動報告」等で家庭や地域に積極的に発信する。 3 防災教育・安全教育において、生徒が主体的に行動できるような計画を立てる。
--------	---

目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 「例年どおり」の内容や運営が現状に合っているかをよく検討する。また各担当が十分に準備できるよう早めの計画の提示と業務内容・分担を明確に示すことを心がける。 2 一斉メール配信を適切に活用し、各家庭への情報量を増やす。また、HPの定期的な更新により、PTA活動や学校行事などの情報を広く伝える。 3 生徒が防災の必要性を実感できるよう、実践的な訓練を行う。また、地域と連携し、災害時に望ましい行動ができるよう内容を検討する。
------------	---

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<p>儀式や行事についてはスムーズに運営できるよう計画・実施している。HPの更新と西高だよりの発行を通して情報の発信を継続している。年度末に発行するPTA会報も会員で分担して作成中である。今年度は西高祭やボランティア等の行事の際に保護者に呼びかけて参加していただいた。各種訓練も予定通り実施している。</p>
------------------------	--

達成状況 (1～2月記載)	<p>儀式・行事の在り方はその都度見直し、連絡・調整を図りながら実施している。PTA活動では研修や校外指導を予定どおり実施したほか、西高祭等で多数の保護者の協力をいただき、家庭と学校の連携を深めることができた。防災関係では、授業時の訓練の他放課後を想定した訓練も実施できた。</p>
------------------	---

自己評価 (1～2月記載)	B	<p>生徒数の減少、職員の人数減に伴い、行事や避難訓練等の運営を見直し、無駄を省いたり新たな視点や発想を取り入れたりしながら最大限の教育効果が得られるよう工夫していく必要性を感じている。</p>
------------------	---	---

評価基準
 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員は保護者と地域との連携について肯定的な評価が高いが、保護者のPTAや学校行事への参加は昨年度同様課題となっている。コロナの影響もあるかもしれないが、それだけだろうか。 ・年に何回実施しているのか？ ・大仙市のシェイクアウト訓練の時は実施したか？（2023.1.23）
------------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策（学校評議員会終了後に記載）	<p>保護者のPTAの参加については学年により大きな差があることから、学年部職員と保護者との関係性に因るところも大きいと考えられるが、来年度は全体のPTA活動や情報発信の見直しを図り、足を運びやすい学校にしていきたい。大仙市シェイクアウト訓練は今年度実施できなかったため、来年度は実施したい。</p>
-------------------------------------	--

評価領域	教務部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を大切にし、生徒一人ひとりの学習意欲の向上を促す。 ・生徒が主体的に活動する授業づくりを実践する。 ・特色ある教育活動を実践できるよう、教育課程の見直しを図る。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板や一人一台端末等のICT機器の活用により、生徒が主体的に取り組む活動が各授業内で増えている。 ・学校設定教科「地域探究」や家庭科、福祉科の授業で、地域の外部人材を活用した授業を実施している。 ・新しい方法による評価がスタートしているが、これを適切に運用しつつ効果を検証し、より良い方法を模索していく必要がある。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、教員の授業状況を定期的に振り返ることで、授業状況を良好に保つ。 ・授業や考査を実施する教室環境を学習活動に集中できるようにするとともに、ホームルーム教室の美化に努めさせる。 ・年次進行する新教育課程と旧教育課程の融合を図りながら、教育課程の見直しを進める。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業チェックシートにより得られた情報を活用し、授業状況を良好に保つ上での課題を明らかにして改善を図る。 ・日常の教室環境整備を繰り返し指導する。 ・情報部及び研修部と連携し、授業での ICT 機器の有効活用と協働的活動の導入を促進する。 ・学校の特色や魅力をテーマに、教育課程の見直しを進める。 ・新しい評価方法実施上の課題を明らかにして改善を図る。 	
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・5月に授業チェックを実施し明らかになった課題に対応した。また、授業態度の課題に対応した新しい「教室内（授業内）のマナー」を定め周知を図った。 ・教室環境については各学年において指導している。 ・研究授業や参観授業の際に ICT 機器の活用と協働的活動を計画してもらうよう働きかけた。 ・教科から出された要望をもとに教育課程を見直し修正を加えた。 	
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業状況は良好に保たれ、生徒の意欲を引き出す工夫がされている。 ・各教室は学習活動に集中できる環境に保たれている。 ・教育課程については検討を重ねながらより良いものになるよう修正を加えてきた。現時点で作業が遅れている観点別評価の検証と改善への取組を今後進めていく。 	
自己評価 (1～2月記載)	B	各学年部・各教科の取組により授業改善が図られ生徒の学習意欲も向上しているが、一部の意欲の低い生徒への対応が引き続き必要である。新学習指導要領への対応については比較的円滑に進んできたが、観点別評価の検証と改善を今後進めていく必要がある。
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や生徒アンケートの結果から、分かりやすい授業づくりが行われていると思った。ICT機器の活用により、学び方を身に付けている生徒が増えてきていると感じた。 ・ICT機器の有効活用は今後も継続しながら取り組んでもらいたい。
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策（学校評議員会終了後記載）	変化の激しい時代に適応し自立して生きていく力を身につけられるよう、今後も研修の充実や情報の共有によって、ICT機器を活用した探究型の授業づくりに取り組んでいく。 また、新学習指導要領に即した教育課程の研究を進め、現行の教育課程の見直しを図る。	

評価領域	生徒指導部
------	-------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会のルールやマナーを守る素直でさわやかな態度を育てる。 ・西高生としての自覚と誇りを持ち、母校を愛する心を育成する。 ・思いやりの心、互いの立場や考え方を尊重し合い社会の一員として共に生きていくことができる開かれた心を育成する。
------	--

現 状	多くの生徒が重点目標に沿って行動ができる一方、「当たり前」のことをきちんとすることが難しい生徒もいる。自尊感情や帰属意識の低い生徒もおり、そのことが学校生活に対する意欲の低下や規範意識の低下を招いている。
-----	--

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールやマナーを守る、挨拶、時間規律・整容など「当たり前」のことをきちんとできる生徒、「主体的に」行動できる生徒を育成する。 ・社会規範意識を持って行動し、西仙北高校の一員として校歌を高らかに 歌うことのできる生徒育成する。 ・自己肯定感を高め、他者を理解し、いじめの予防、根絶に向け行動できる生徒を育成する。（思いやりの心、互いの立場や考え方を尊重し合うことのできる開かれた心を育成する。）
--------	---

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会、生活委員会、PTAと連携して登下校時の挨拶運動及びマナーアップ運動を充実させる。 ・教職員の共通理解のもと、いじめの防止やいじめの早期発見に努め、その発生に対して組織的に対応する。 ・各種講話や生徒指導だよりを通して、ルールやマナーの意義を理解させ、それらを主体的に守ろうとする姿勢を養う。 ・自己肯定感を高め、共感的な人間関係を作れるよう支援を強化する。
------------	--

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員、生活委員、PTAによる登校時マナーアップ運動を実施した。また、生活委員会がポスターを作成し、全校集会で挨拶励行、整容改善、いじめ防止を呼びかけた。生活委員会が主催する全校集会は生徒が前に出て発言することで、生徒が活躍し他者を理解する機会とした。 ・いじめアンケート及び保健部のマンスリーチェック、Q-U結果を活用して、各学年部等が面談し、困りごとやいじめの早期発見に努めた。 ・「交通安全教室・e-ネット安心講座・インターネットの健全利用・薬物乱用防止教室・SOSの出し方受け方講座」を開催し、ルールやマナーを守ろうとする態度の育成に努めた。 ・学校生活の楽しみ及び社会に出る準備として服を選ぶ力を身に付けることを目的として私服で登校しても良い「西高カジュアルデー」を3回実施した。
------------------------	---

達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時マナーアップ運動や整容指導、各種講座など、教職員一丸となった取り組みで、挨拶の習慣がつき整容面も改善され、ルールやマナーを主体的に守ろうとする姿勢が育ってきている。 ・「西高カジュアルデー」はマナーや身だしなみについての意識が高まっただけでなく、個性や多様性を尊重する態度や同級生への理解が深まった生徒が多数いた。
------------------	--

自己評価 (1～2月記載)	B	自己肯定感を高めるための取り組みを心がけた。今後もマナーアップやいじめ予防に更に力を尽くす必要がある。
------------------	---	---

評価基準
A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒の個性をつぶしている」、「地毛でも黒染めの必要があるのか」という記述に対して どのように対応したのだろうか。 ・個性や多様性を尊重する意味での「カジュアルデー」はユニークな取り組み。 ・登校時のマナーアップ運動時にPTAとも連携している所が、西仙北高校の特徴だと思う。今後も続けてほしい。玄関前で下校時も実施したい。
------------	---	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・整容指導については、毎回の整容指導時に生徒に対して、また生徒指導だよりや面談等で保護者に対して、その意義を伝え協力をお願いしてきた。改訂された生徒指導提要にもあるように、校則の検証見直しも含め、今後も教職員一丸となった取り組みをしていきたい。 ・今年度始まった西高カジュアルデーやPTAと連携したマナーアップ運動については、さらに周知を図り参加者を増やしていきたい。
------------------------------------	---

評価領域	進路指導部
------	-------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・知性と教養を兼ね備えた、自主性と創造性に富んだ生徒を育成する。 ・個々の希望進路を実現できるよう、強い意志を持った生徒を育成する。 	
現 状	<p>目標をもって意欲的に取り組む生徒もいるが、明確な進路目標を持つことができていない生徒が多く見受けられる。世界観が狭く、生活圏外の進路をイメージできない生徒が多い。そのため、進路実現に向けた動き出しが遅く、希望進路に偏りが見られる。</p>	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・明確な進路目標を持たせられるように支援する。 ・生徒一人一人に目を向け、それぞれに応じた進路指導を行う。 ・生徒の世界観を広げ、さらには深められるように導く。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なガイダンス等、多くの人から話を聞く機会を設ける。 ・生徒との個人面談を適宜実施する。 ・個々の生徒の希望進路に応じて、補習や勉強会を実施する。 	
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との個人面談を適宜実施した。また、生徒の様子を観察し、こちらから声をかけることで、その時点での問題を共有するようにした。 ・学級担任、学年主任、共通担任、部活動顧問などと、随時、情報交換を行い、生徒の進路目標や個々の悩みについて共有した。 ・個々の生徒の希望進路に応じた補習や勉強会を実施した。特に、夏季休業中は、英語、数学、小論文において、受験科目に応じて補習できる体制を築いた。2学期以降は、個別の補習体制となり、生徒それぞれの過去問対策を行った。公務員対策補習は、年間を通じて行った。 	
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生23人全員が、目標を下げることなく第一志望を貫いた。その結果、3年ぶりに国公立大学合格者が出た（今回は2名）。その他の進学希望者も、高倍率で不合格者が出ている受験を勝ち抜くことができた。また、秋田県警合格も達成できた。就職希望者は全員が一社目で内定を勝ち取った。全体を通じて、過去の進路実績にとらわれず、自分の希望を大切に考えた進路を選択することができた。 	
自己評価 (1～2月記載)	A	<p>今年の3年生の進路結果を考えれば、目標は十分に達成できた。「合格者数」という「数」だけでなく、「進路先の将来性・安定性」という「質」の面でも素晴らしい結果だと考える。</p>
評価基準	<p>A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>	
学校関係者評価と意見	A	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生を中心に学校全体で手厚い進路指導が行われており、生徒や保護者のアンケート結果からも、適切な情報提供が行われていると感じた。教職員の皆さんの熱心な指導に感謝したい。 ・就職後の離職者（率）も調べておく必要があるのでは。就職後の満足度などを知ることも大事。 ・きめ細かな進路指導の成果だと思います。 ・生徒一人一人に目を向けた指導がありがたい。今後も務めていきたい。
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・離職者の調査は、「卒業1年後」「卒業2年後」それぞれについて県からの調査があり、就職支援員の方が担当している。その際、離職理由についても調査することになっているので、次回から公表するかどうか、検討したい。 ・来年度以降も、一人一人に目を向けた指導を続けていきたい。 	

評価領域	特別活動部
------	-------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 全校生徒が学校行事へ積極的に参加し達成感を味わう事ができるよう、内容・日程等の見直しを行う。 2 部活動加入率を上げ、学校の活性化を図る。 3 地域密着型の行事を実行する。
------	--

現 状	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒数の減少により、従来行ってきた内容の行事が実施しづらくなっている。生徒会が中心となって行事の準備・運営・後片付けを行っている。 2 部活動を掛け持つ生徒が増え、延べ人数で例年の加入率をキープしている 3 全校で地域ボランティア活動（福祉施設のクリスマスツリーの飾り付け、大綱引きの綱よい、高齢者宅の除雪）を実施している。
-----	--

具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒会が中心となり生徒の行事への主体的参加を促し、成功体験から達成感を満たす。 2 積極的な勧誘を行い、部活動加入率の増加と部活動の精選を促進する。 3 地域行事への参加、また、地域を巻き込んだ行事の企画を実施する。
--------	--

目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 全校生徒で特活行事を実施し、各分掌と連携して全職員で取り組む。 2 各部活動顧問の理解を得て、兼部の勧誘を推奨する。 3 生徒がメニューを考案するなど地元業者とコラボする。また体育的行事を通じて地元総合型スポーツクラブと交流を図る。
------------	--

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行事内容をコロナ禍でも感染症対策を万全にし、実施できる行事は積極的に実施した。生徒会がリーダーシップを発揮することによって、生徒主体の活動を目指した。 ・ 部活動について時期を問わず、部活動の加入を呼びかけている。 ・ 綱よい、除雪ボランティアは今後実施予定である。 ・ 新規事業として来年度にかけて、植林事業を実施する。
------------------------	--

達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症対策を万全にし、内容を精選しながら予定されていた行事をほぼ実施することができた。内容に関しても、感染症対策を考慮しながら、生徒主体の内容を実施できた。 ・ 年度途中からの入部希望者が複数名出るなど、積極的に課外活動へ参加する姿勢が見られる。 ・ 地域貢献を主体とした大綱プロジェクトへの参加や、清掃ボランティア、地元施設へのクリスマス飾り付け贈呈、除雪ボランティアを実施している。
------------------	---

自己評価 (1～2月記載)	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>コロナ禍にありながら、鍋っこ以外の行事を実施できた。生徒数減少による規模の縮小だけでなく、予算編成等も考慮しながら、より良い行事の運営を考えている。</td> </tr> </table>	B	コロナ禍にありながら、鍋っこ以外の行事を実施できた。生徒数減少による規模の縮小だけでなく、予算編成等も考慮しながら、より良い行事の運営を考えている。
B	コロナ禍にありながら、鍋っこ以外の行事を実施できた。生徒数減少による規模の縮小だけでなく、予算編成等も考慮しながら、より良い行事の運営を考えている。		

評価基準
A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が地域と関わる行事が多く、学校を中心とした地域づくりを推進していることはすばらしいと思う。ただし、教職員の多忙化につながらないよう、行事等を精選していく必要があると考える。 ・ デンマーク社会福祉研修など他校にはない特徴がある。小さな学校ながらユニークな活動をしているので、もっと広く多くの人にその内容を知ってもらえる事は大切と思う。 ・ 植林事業について教えてほしい。地域行事への参加、地域ボランティアの継続をお願いしたい。デンマークに行けたのが大きい。秋田県SDCs パートナー登録制度を利用しては？ </td> </tr> </table>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が地域と関わる行事が多く、学校を中心とした地域づくりを推進していることはすばらしいと思う。ただし、教職員の多忙化につながらないよう、行事等を精選していく必要があると考える。 ・ デンマーク社会福祉研修など他校にはない特徴がある。小さな学校ながらユニークな活動をしているので、もっと広く多くの人にその内容を知ってもらえる事は大切と思う。 ・ 植林事業について教えてほしい。地域行事への参加、地域ボランティアの継続をお願いしたい。デンマークに行けたのが大きい。秋田県SDCs パートナー登録制度を利用しては？
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が地域と関わる行事が多く、学校を中心とした地域づくりを推進していることはすばらしいと思う。ただし、教職員の多忙化につながらないよう、行事等を精選していく必要があると考える。 ・ デンマーク社会福祉研修など他校にはない特徴がある。小さな学校ながらユニークな活動をしているので、もっと広く多くの人にその内容を知ってもらえる事は大切と思う。 ・ 植林事業について教えてほしい。地域行事への参加、地域ボランティアの継続をお願いしたい。デンマークに行けたのが大きい。秋田県SDCs パートナー登録制度を利用しては？ 		

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年・今年と行事を改変し、地域の要請や本校の教育目標に即した活動を行ってきた。今後とも、地域に根ざした活動を推進する。また、校内外の行事の精選と、より効果的な内容の確立を行う。 ・ 本校独自の行事等に関しては、より、地元や周辺地域に発信し、本校の教育成果を周囲に広めてゆきたい。 ・ 登録制度に関しては、積極的に検討する。
------------------------------------	---

評価領域	保健部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校環境衛生に努める。 ・生徒の心身の健康増進や感染症対策の指導に努める。 ・学年や分掌との連携により対象を絞った指導の機会を生かす。 	
現 状	<ol style="list-style-type: none"> 1 清掃の取り組みや教室環境は概ね良好であるが、今後も維持していく必要がある。 2 感染症拡大防止としてマスクの着用については徹底できているが、手洗いや手指消毒、ソーシャルディスタンス、換気等については意識が低い生徒もいる。 3 一部規範意識が身につけていない生徒もおり、全体的に自己肯定感・自己有用感が低い。 	
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 環境美化に取り組む習慣をつけさせ、美化意識の向上を目指す。 2 健康診断の事前・事後指導を適切に行い、また、感染症対策の指導を行うことで、生徒自らが進んで健康に留意する場面を設定する。 3 情報提供の徹底により、良好な人間関係作りの援助をする。 	
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校生活全体(特に清掃活動)を通して、校舎を大切に扱う心を育てる。 2 保健だよりやポスター等を利用して、保健衛生面の呼びかけを行う。なお、朝の健康観察を通して、生徒の変化を見逃さないようにする。 3 マンスリーチェックや講座を通して、心身の健康を意識させる。また、スクールカウンセラーや特別支援委員会との連携により、気になる生徒についての情報共有・協議を進める。 	
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1 保護者を巻き込んだ美化意識の向上を検討し、地域ボランティア活動において、保健委員会が広報活動に努めた。 2 朝の健康観察を徹底した。また、感染者発生時や修学旅行等での抗原検査や感染拡大防止においてスムーズに対応できた。 3 新入生オリエンテーションにおいて、専門家によるグループエンカウンターを実施し、入学時の緊張を緩和する機会を設けた。また、1・2年生には、グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングの機会を設け、人間関係づくりの援助に取り組んだ。マンスリーチェックについては、新たに自己肯定感や自己有用感を問う質問を加え、生徒の心情にあった声かけができるよう努めた。 	
達成状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1 先生方のご指導のおかげで、校内の清潔が保たれている。保護者・地域への取り組みは今後検討が必要。 2 朝の段階で全校の健康状態が把握でき、感染予防に繋がっている。 3 人間関係作りの援助に繋がっている。 	
自己評価 (1～2月記載)	A	学年部と連携しながら、生徒の衛生面、体調面、精神面について対応できた。
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	A	<ul style="list-style-type: none"> ・構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングは定期的に行い、円滑な人間関係づくりを進めてほしい。スクールカウンセラーとの連携は、今後さらに大切になるのではないかと思います。 ・美化意識が高いと感じる。 ・保健委員会が広報活動に努めたのは意義ある活動だと思います。生徒の健康、メンタルをサポートする取組が充実していると感じました。
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度もグループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを実施し、円滑な人間関係づくりに取り組んでいきたい。 ・保護者や地域を巻き込んだ環境美化に取り組みたい。 ・他分掌や学年部と連携し、またスクールカウンセラー等外部機関の協力を得ながら、支援が必要な生徒へ適切な対応を考えたい。 	

評価領域	図書・視聴覚
------	--------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の充実と図書館の活性化を図る。 ・朝読書への取り組みの徹底を図り、読書に親しむ姿勢を育む。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、生徒からの希望調査で購入した図書については、希望した生徒自身が読んだり、他者に薦めたりする姿が見られた。しかし、生徒の活字離れは確実に進行しており、一人一台端末が貸与されたこともあり、休み時間に図書室を訪れる生徒は減っている。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の希望する図書の購入を積極的に検討し、図書館の利用を促す。 ・生徒に図書館オリエンテーションを行い、図書館についての理解を深めさせるとともに、利用しやすい環境づくりに努める。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広いジャンルの図書を紹介したり、購入することで生徒の多種多様な興味に対応できるよう努める。 ・これまで新入生のみ行ってきた図書館オリエンテーションを全学年で実施し、図書館への理解を深めさせる。 ・POPづくり等を実施し、生徒の本への興味を喚起する。 	
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の購入希望調査をとり、生徒の興味関心が高い図書の選書を実施するようにしている。職員からも生徒への推奨本のアンケートを実施する。 ・学年毎に図書館オリエンテーションを実施し、図書館への理解を深めさせた。また、年間を通してタブレットを活用して読書記録をつけさせた。 ・多種多様な図書への興味関心を深めさせたため、3年生を対象にPOPづくりを行った。 ・1・2年生全員と一部の3年生を対象として読書感想文に取り組みせ、読書をする姿勢を培わせた。 	
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒から購入希望の出た図書をなるべく購入するよう選書している。 ・全学年でオリエンテーションを行ったことで、全員が1度は図書室を訪れ、何人かは本を借りている様子が見られた。 ・POPづくりのために様々なジャンルの本に興味を持ち、手に取って読んでいる姿が見られた。 	
自己評価 (1～2月記載)	B	<p>読書に親しむ習慣が身につけている生徒もいるが、年間を通して1冊の本を読み終えるのに苦慮している生徒も多い。タブレット端末が配布されてから、休み時間や放課後に図書室で過ごす生徒が減り、図書室を訪れる機会をこちら側から設けないと生徒の足がなかなか向かない。利用する生徒も固定化されている。多くの生徒が訪れる図書室となるよう工夫していきたい。</p>
評価基準	<p>A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>	
学校関係者評価と意見	B	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館が単なる本の置き場所にならないよう、授業等での活用を積極的に進めてみてはどうか。生涯にわたって読書に親しむ習慣を身に付けるよう、学校全体で活字離れに対して取り組んでほしいと感じた。
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	<p>令和5年度は教員から授業で活用できる図書の推薦をしていただき、生徒にも職員にも図書室を活用してもらえるような図書やデジタル資料を準備していきたい。 読書記録については、継続しながら生徒の読む本の傾向を探り、新たな本を図書室に入れたい。</p>	

評価領域	情報部
------	-----

重点目標	1 情報教育機器及びネットワークの管理を徹底し、利用の活性化を図る。 2 生徒に情報モラルに関する知識を身に付けさせ、情報モラルを守ろうとする態度を育成する。	
現 状	校内の情報教育機器及びネットワークについて、「e-AKITAICT学び推進プラン」により導入された校内通信ネットワーク、1人1台端末及び大型掲示装置の活用のため、管理の徹底や利用の活性化が必要である。また、生徒の情報モラルに関する指導が必要であると考える。	
具体的な目標	1 他の分掌と協力をして、情報教育機器やネットワーク利用等に関する研修を実施する。 2 生徒が情報モラルに関して主体的に考え、行動できるような指導を行う。	
目標達成のための方策	1 研修部との連携により、1人1台端末や大型掲示装置の活用に関する研修を実施する。 2 生徒指導部と連携し、生徒が情報モラルについて考える機会を設ける。	
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	研修部と連携し、2日間に分けて校内研修を実施した。また、ICTの活用に関する情報の共有を情報部員が中心となって行った。情報モラルに関する指導は、生徒指導部が実施した「情報モラル教室」や情報科と連携しながら、生徒が情報モラルについて考える機会を設けた。ICT機器の活用については、活性化をねらいとして生徒や教師の1人1台端末の個人管理を進めた。	
達成状況 (1～2月記載)	ICTの活用により授業時間内だけでなく、家庭学習やオンラインでの学習活動を行うことができるようになることをねらいとして校内研修を実施した。その結果、教師のICT活用が推進され、オンライン上の双方向的な学習活動など、教師が学習の新たな手立てを取ることができるようになった。 情報モラルについては、教師など他者から見えづらい面も多く実態を正しく把握する必要がある。情報モラル、機器や情報の管理などについて、調査を進めていく予定である。	
自己評価 (1～2月記載)	B	ICTの視点からの授業改善は、校内研修や情報部員による情報共有等により、昨年度より進めることができた。生徒1人1台端末の活用も進み、生徒が日常的にICT機器を活用している状態である。しかし、機器の管理や使い方、使用上のルールに課題がみられることもあった。
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	B	・18歳成年年齢の引き下げに伴い、インターネットの利活用に関するトラブルは生徒や保護者にとって重要な問題である。具体的な事例を用いながら、実践的な指導を引き続き行ってほしい。
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	引き下げられた成年年齢により、インターネット上でのトラブルに対する意識の向上が求められることから、生徒や保護者に向けたポスターやチラシなどの宣伝物を作成し配布する。また、他の分掌等と連携しながら、生徒への指導を行っていくとともに、学校のウェブサイトなどを通して、トラブル事例や対処法、注意点などを提供する。	

評価領域	研修部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「他と協働して課題解決ができる生徒」の育成を目指し、ICT等を活用した授業改善に役立つ情報提供や研修を实践する。 ・生徒の個に応じた指導に役立つ情報提供や研修を実施する。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が自己の研鑽に生かせるように、教育センターをはじめとする諸機関からの情報を提供している。 ・職員研修の機会を複数回に分けて企画し、実施している。 ・授業参観週間の期間を設けてはいたが、活発に互見しあうことが少なく、改善が必要である。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力の向上を図るために公開授業や校内研修を実施するとともに、授業アンケートの有効活用に努める。 ・様々な生徒に対応していくために、生徒の実情に即した校内研修を企画・実施するとともに、校外での研修の成果を共有する機会を設ける。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会、教員全員が実施する公開授業、授業アンケート等を効果的に行い、授業改善を図る。 ・校外で行われた研修の中から特に教職員で共有したい事項については、伝達あるいは職員研修を実施する。 	
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2学期末に生徒を対象に授業アンケートを実施した。また教員を対象に授業改善に関するアンケートを行い、探究型の授業作りや生徒の学習時間伸張に向けた取り組みについて情報共有をした。 ・校内研究授業では指導主事の先生にも参観いただいた。また公開授業では、ICT活用の面などで工夫のある授業が実施された。 ・職員研修については情報部と連携したICT活用研修会や地域探究に関連した巡検を実施した。 ・各種研修会、講座等についての情報を通知し、参加を促した。 	
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートや授業改善に関するアンケートでは、各自で問題把握と改善に取り組むことはできているが、特に探究型の授業作りの面では個人差がある。まだ、学校を挙げての取り組みにはなっていない状況である。 ・校内研究授業、公開授業を通じて、今までよりも多くの人から授業を参観してもらい助言をいただくことができている。 ・職員研修では、ICTの実践的な活用や西仙北地域の特色について理解を深めてもらうことができた。 	
自己評価 (1～2月記載)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は授業改善に関するアンケートや公開授業を実施したが、これにより各教員が従来よりも自分の授業を振り返り改善する機会が増えたと考える。ただ探究型の授業については、普段の授業で実践する状況にはなっていない。この改善に向けた取り組みが必要である。
評価基準	<p>A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>	
学校関係者評価と意見	B	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業を通して、教職員同士が互いに学び合うことはすばらしい。生徒一人一人にとって学ぶことが楽しいと感じる授業改善を今後とも進めてほしい。そのことが家庭学習の充実にもつながると考える。
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	<p>公開授業を継続するとともに、情報部と連携しICTの活用等をテーマに設定することにより、教員の授業力向上に寄与したい。また家庭学習に関しては、タブレットを持ち帰って事前学習に取り組むことを前提とした授業実施などが、家庭学習の充実につながるものと考えている。タブレット配付などにより新たな学びのあり方が求められているが、教員が積極的にチャレンジしやすい土壌を作っていきたい。</p>	

評価領域	1年部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣を確立させる。 ・ 進路実現に向けて、基礎学力を定着させる。 ・ 集団に対して貢献できる場面を多く設定し、自己有用感を高めさせる。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的には、学校生活に活発に臨んでいる。 ・ 基礎学力が身に付いていない生徒が多い。 ・ 学習等に対して前向きに取り組めない生徒が数名いる。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ さわやかな返事や挨拶が出来る。自己管理に努め、整理整頓ができる。整容を保つことができる。 ・ ベル着を徹底し、1時間1時間の授業を大切にする。週末課題や提出物などの期限を守る。 ・ 学校行事や部活動に意欲的に参加する。清掃や作業などに対して、協力して取り組む。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小さな目標を確実に達成していくプロセスを重ね、着実に学力を向上させたい。 ・ 生徒の様子をよく観察し、適切な声かけ等を行う。 ・ 日々の行動や努力の積み重ねが、自己実現につながることを常に意識させる。 	
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣の確立や授業の大切さなど学校生活全般について、学年部全員で生徒の情報を日々共有し、声かけを重ねてきた。 ・ 信頼関係を築けるように、日常的な保護者対応を心がけて行った。 ・ 良いところを褒め、自信を持たせ、自己肯定感を育むようにした。 	
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活態度や学習への取り組みが心配な生徒もいる。しかし、少しずつではあるが、全体的に目標に近づいてきている、学校行事やボランティア活動に積極的に取り組めるようになってきた。 	
自己評価 (1～2月記載)	B	目標に近づいてきている部分もあるが、基礎学力を定着させるためには、さらなる取り組みが必要である。
評価基準	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者評価と意見	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣の確立に向けて、丁寧に指導を積み重ねているように感じた。「西仙北高校に入学してよかった」、「毎日楽しく登校している」と感じる生徒が今後さらに増えることを期待してる。 ・ 今後「成年年齢引き下げ」の問題点を子供達に認識してほしい。考えてほしい。
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	基本的な生活習慣の確立に向けて、時間をかけながら一つずつ前進していけるように、継続して指導していきたい。幼さが目立つ学年であるため、成年年齢引き下げに関しても、メリットだけではなく注意すべきことを教える機会を設定したい。学校生活を通して自己・他者理解を進め、将来のためによりよい成長ができるように支援していきたい。	

評価領域	2年部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい生活習慣を身につけ、自立した生活に向けての基礎を築く。 ・向上心を持って学習に参加し、進路希望の達成に向けて学力を養成する。 ・コミュニケーション能力の伸長を図る。 ・事故の役割を意識した活動を重ね、自らの在り方を前向きに評価する。
------	---

現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学年内の人間関係は概ね良好であり、安定した雰囲気である。昨年より、社会性が増しお互いの意見を尊重し合うようになっている。
-----	---

具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で、はっきりとした挨拶や返事をする。自己管理に努め、欠席・欠課を少なくする。清潔感を意識した整容を心がける。 ・ベル着に心がけるなど、授業を大切にする。反復学習を積極的に行い、着実に学力を向上させる。提出物の期限を厳守する。 ・機会を捉えて、間違いを恐れず意欲的に自分の意見を述べる。相手の立場や状況を理解し、素直に耳を傾ける姿勢を養う。 ・学習以外の活動にも自発的に参加し、様々な経験を重ねる。清掃活動や奉仕活動を通じて、社会の一員としての自覚を持つ。
--------	---

目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なものの考え方を紹介したり、様々な経験を積ませることで、自分の将来を念頭に自らの行動できるように促す。 ・マナーや言葉遣いなどに加え、他者との適切な距離感を習得させる。 ・お互いに尊敬し合える雰囲気を大切にし、切磋琢磨しながら社会人としての資質の育成に努めさせる。
------------	---

具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・インターシップを通じ、言葉遣いや礼儀作法、企業から必要とされる人間力を身に付けようとした。事前事後研修を充実させた。 ・修学旅行では、時間厳守、報告の重要性、段取りの確認などを通じ、スムーズな活動を目指した。 ・進路学習により、学力だけでなく、進学及び就職してからの生活を調べ、より詳細で具体的な目標を立てた。
------------------------	--

達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・報連相の重要性や、電話の応対での言葉遣いなど事前研修で身に付け、実践できた。 ・修学旅行を、コロナ禍であるが、感染者を出すことなく無事に終えることができた。 ・具体性が伴った進路目標が設定され、実現に向けて努力している。
------------------	---

自己評価 (1～2月記載)	<table border="1"> <tr> <td>B</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ、修学旅行を通じ、社会性をしっかりと身に付けることができた。 ・進路に関して、より具体的な方針を決定することができ、より一層、学力だけでなく一般常識や言葉遣いなどを習得している。 </td> </tr> </table>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ、修学旅行を通じ、社会性をしっかりと身に付けることができた。 ・進路に関して、より具体的な方針を決定することができ、より一層、学力だけでなく一般常識や言葉遣いなどを習得している。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ、修学旅行を通じ、社会性をしっかりと身に付けることができた。 ・進路に関して、より具体的な方針を決定することができ、より一層、学力だけでなく一般常識や言葉遣いなどを習得している。 		

評価基準 A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	<table border="1"> <tr> <td>B</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での学びが社会につながるよう、意図的計画的に取り組んでおり、その成果も少しずつ見えてきているように感じた。進路実現に向けて、生徒一人一人との対話を大切に今後も適切な指導をしてほしい。 ・今後「成年年齢引き下げ」の問題点を子供達に認識してほしい。考えてほしい。 </td> </tr> </table>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での学びが社会につながるよう、意図的計画的に取り組んでおり、その成果も少しずつ見えてきているように感じた。進路実現に向けて、生徒一人一人との対話を大切に今後も適切な指導をしてほしい。 ・今後「成年年齢引き下げ」の問題点を子供達に認識してほしい。考えてほしい。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での学びが社会につながるよう、意図的計画的に取り組んでおり、その成果も少しずつ見えてきているように感じた。進路実現に向けて、生徒一人一人との対話を大切に今後も適切な指導をしてほしい。 ・今後「成年年齢引き下げ」の問題点を子供達に認識してほしい。考えてほしい。 		

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	<p>引き続き、生徒個人の特性および進路希望に寄り添いながら、指導する。十分な社会性と知性を備えるように導きたい。 18歳成年については、啓発教材を効果的に使用し、また、公民の授業内での指導を併せて、しっかりと認識し、自ら考えるように指導する。</p>
------------------------------------	--

評価領域	3年部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会を生き抜く幅広い学力や知識、コミュニケーション能力を身につける。 ・社会人として要求される正しいマナーやエチケットを身につける。 ・自己の存在意義を肯定的に捉える。 	
現 状	<p>素直に反応できる生徒たちであるが、自ら考え判断する姿勢がまだ不十分である。社会人として自立し、生き生きと活躍できる人材となれるような指導が必要である。</p>	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の授業を大切にし、基礎基本の徹底を図る。 ・物事を多方面から考えるなど、適切に判断できる礎を築く。 ・意思疎通が重要となる場面で、相手の意見に素直に耳を傾けると同時に自分の意見を積極的に述べる。 ・清潔な整容や正しい礼儀に心がける。 ・状況に応じた挨拶・言葉遣いを習得する。 ・自分を支えてくれるものに対する感謝の気持ちを忘れない。 ・学校行事や部活動に意欲的に参加するなど、高校生活の充実を図る。 ・物事に対して前向きに取り組み、積極的に集団に対して寄与する。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の学習や生活の充実を基礎とする。 ・自主性を伸ばさせるために、自ら積極的に活動できる場面設定を意図的に増やす。そして行動の結果である成功や失敗の経験を次に生かせるようフォローアップも大切にしたい。 	
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<p>具体的な指導としてはこれまでの指導の延長であり、確かな基礎学力の養成や基本的な生活習慣の習得を繰り返し進めてきた。加えて最終目標のひとつである進路希望の達成に注力し、今後社会に出ることを念頭に多様な事象に対応できる力を意識した。可能な範囲で校外から講師を招き、多様な学びを展開してきたことも効果があったと思う。</p>	
達成状況 (1～2月記載)	<p>進路指導を進める中で、社会で必要とされる素養を少しずつではあるが身に付けられたと考えている。またコミュニケーション能力を伸ばすことができるなど、進路目標達成に向けて活動することが人間的な成長につながったと認識している。相手のことを考える余裕ができるなど、この3年間で学年の人間関係が一番円満な時期を迎えていると感じている。</p>	
自己評価 (1～2月記載)	B	<p>成長は感じられるものの、困難を乗り越える心の強さには到達していないと思う。難しいことから簡単に逃げるのではなく、工夫改善をしながら問題可決に臨むような「しなり強さ」を育てたい。そのために多くの時間は残されていないが、学力のさらなる向上に加え、様々な活躍の機会を経験し、自信や自己有用感を育んだ状態で卒業させたい。</p>
評価基準	<p>A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>	
学校関係者評価と意見	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の進路実現に向けて、多様な人々と協同しながら熱心に取り組んでいるように感じた。予測困難な社会をたくましく生き抜くためにも、様々な課題解決の経験を積み重ねてほしい。 ・今後「成年年齢引き下げ」の問題点を子供達に認識してほしい。考えてほしい。
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策(学校評議員会終了後記載)	<p>今後価値観の多様化がますます進み、さらに転職などもより一般化することが予想される。社会の趨勢に柔軟に対応できるためにも、基本的な学力がしっかり身に付くような指導を心掛けたい。 またAIが活躍するような時代も身近に迫っているわけだが、基本となるのは適切なコミュニケーションであり、その基礎の部分は大切に育てていきたい。</p>	

評価領域	国語科
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の展開や形態の工夫を図るとともに、適切な教材を選択し、生徒の主体的な学びを促すことにより、学力の向上と知識の定着を目指す。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に意欲的に取り組む生徒は多いが、自己の理解度よりも難易度の高い問題に対して知識欲を見せる生徒は少ない。義務教育段階までの知識が不足しているために、高校での学習内容を扱うことが厳しい生徒もいる。 ・論理的な文章を読解する力を有する生徒もいるが、教科書の本文を音読すること厳しい生徒も多い。 ・語彙力が低いため、表現力も拙いことが多い。
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心を引く教材研究・実践を行う。 ・基礎学力の向上と知識の定着を図る。 ・社会で求められる語彙力・読解力・表現力を育む。
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜 I C T 機器を活用し、生徒の興味関心や意欲を喚起するような授業を行う。 ・定期的に課題を課し、自ら学習する習慣を身につけさせる。 ・グループ活動やペアワークを取り入れ、協働しながら主体的に課題に取り組む姿勢を育む。また、活動の結果を発表することで表現力をつけさせたい。
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目で、適宜 I C T 機器を活用し授業を行っている。 ・週末課題を通じて、学習の精度を高める力を培ったり、自らの習熟度を見極め計画的に学習に取り組む態度を養おうとしている。 ・グループワークやペアワークを取り入れ、協働して課題に取り組みせたり、相互評価を行い課題への到達度合いを確認させたりする活動を行っている。 ・生徒個々の進路目標に応じて、補習を行った。 ・外部の俳句や川柳のコンテストに出品させている。
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・ I C T の活用により、生徒が前向きに学習に取り組む姿勢が見られる。 ・週末課題の提出率は非常に高いが、生徒各自によるチェックの甘いところが課題である。 ・漢字検定は準 2 級合格者合格者が 2 名、3 級合格者が 2 名、4 級合格者 2 名、5 級合格者が 4 名だった。 ・外部のコンテストに応募し入選した生徒もいる。
4 年度の課題及び 5 年度の具体的な対策	<p>〔課題〕 I C T 機器の活用については生徒も教師も大分慣れ、効果的に活用すると授業に意欲的に取り組む姿が見られるようになった一方、機器を使用した活動だけに満足し、知識の定着に結びついていない生徒の姿も見られるのが実情である。</p> <p>〔対策〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I C T の活用とアナログな学習の両面のバランスを取りながら、本校生徒の実情に合った活用の工夫をする。 ・手で書くことに苦手意識が強い生徒も多いが、課題の細やかな確認等を通して、知識が身につくよう繰り返し指導を行う。

評価領域	地歴・公民科
------	--------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化に主体的に対応できる能力の育成と、現代社会に生きる公民として必要な基礎学力の定着をはかる。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育段階での基本的な知識が定着していない生徒が多い。 ・学習意欲の個人差が大きく、地歴・公民科の学習に苦手意識を持つ生徒も多い。 ・社会的事象に対して主体的に考察しようとする姿勢が弱い。
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・画像・映像・資料をもとに自らの考えをグループワーク等によりまとめさせ発表させる場面を設定する。 ・進路実現に向けて、個別指導を充実させる。 ・成人年齢の引き下げを踏まえ、社会生活をしていく上で必要な知識を習得させる。
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教材や画像・映像・実物教材など、生徒の興味関心や学習意欲を引き出す教材を活用する。 ・グループやペアで協力しながら課題を探究してまとめ、発表させる場面を設定する。 ・進路志望に応じた個別指導や資格取得に向けた個別指導を行う。 ・授業内で主権者教育及び消費者教育の内容を扱う。 ・積極的に時事問題を取り扱い、社会事象に関心を向けさせる。
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目においてICT教材を用いた学習を時々実施し、科目「公共」ではデジタル資料集を活用した。formsによる授業振り返りを毎時間実施した。 ・グループやペアで課題を探究してまとめ、発表する授業を各科目で行った。 ・世界遺産検定に向けた個別指導を実施した。 ・主権者教育及び消費者教育の内容を公民の科目で扱った。また、授業ではないが大仙市選挙管理委員会の協力のもと「選挙啓発出前講座」を実施した。 ・新聞記事などで時事問題を扱い、現代社会に関心を向けさせた。
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教材、画像、映像、実物教材等を提示して生徒の関心を高めることができた。デジタル資料集は教師側のスキル不足から、紙製の資料集にはないメリットをなかなか提示できなかった。とはいえ、総じてICTを活用する機会は増加した。 ・グループワークやペアワークにより課題を探究してまとめ、発表させる学習を効果的に組み入れ、主体的な学習を促すことができた。 ・個別指導により意欲のある生徒の力を伸ばすことができた。 ・主権者教育、消費者教育、時事問題への取り組みを通じて、実社会で必要な実践的な知識を習得させることができた。
4年度の課題及び5年度の具体的な対策	<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来よりもICTの活用機会が増えたため、経験値により授業内で効果的に活用できるようになった。しかしロイロノートについては教材研究不足により、使用機会が少ない。 ・デジタル資料集の教材研究が不足し、効果的に活用できていない。 ・問題解決型学習を各科目で取り入れたが、問題の立て方が適切でないと、生徒の学習意欲を引き出せなかったり、生徒の思考や議論が円滑に進まなかったりした。 <p>[具体的対策]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートの活用を積極的に実施していきたい。デジタル資料集の教材研究や、適切な問題解決型学習、課題探究型学習についての研究を進めつつ積極的に授業に取り入れていくことで、学習効果を高め、目標の達成に結びつけたい。

評価領域	数学科
------	-----

重点目標	生徒の学習意欲を喚起させ、基礎学力の定着と進学希望者の学力向上を図る。
現 状	義務教育段階の学習内容が定着しておらず、基本的な計算ができない生徒が少なくない。分数や小数、平方根には強い苦手意識をもつ生徒が多い。集中力が続かず授業に専念できない生徒もいるため、分かる喜びを感じる機会をつくり、気持ちを授業に向ける必要がある。
具体的な目標	実態に応じて学習内容を精選する。基本的内容をくり返し学ばせ、基礎学力を育み、達成感を得ることができる授業を展開する。多様な進路希望の実現に向けて指導の機会を充実させる。学び直しや補習等とおして基本的・発展的内容を指導する。
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内容を精選し作業的な活動を多くする。飽きさせない授業と達成感を感じる授業を行う。 2. 学習習慣を身につけさせるために、課題等の提出物の提出を徹底して指導する。 3. 1年生に学び直し学習を実施し、基本的内容の確認と学習意欲の向上を図る。
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指導する内容を精選し、実状と生徒の興味・関心を考慮した授業を実施している。 2. 週末課題や長期休暇課題等の提出を徹底して指導し、その成果を評価に加味している。 3. 学び直し学習は、基礎的内容の振り返りと苦手な学習内容の反復練習を行うなど計画通り実施した。
達成状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎基本の定着を図り、学習内容の精選をして生徒に「分かる」授業を心掛けた。 2. わずか数人の未提出者や遅れて提出する者はいるが、概ね良好といえる。 3. ほとんどの生徒の小学校や中学校でのつまずきを改善することができ、生徒の数学に対する苦手意識を無くすことができた。
4年度の課題及び5年度の具体的対策	<p>[課題] 学習意欲の向上と高校から学ぶ内容の定着である。高校入試の数学の点数から、数学を苦手とする生徒が多く入学してくることがわかるが、「学び直し」を1年次に実施することで苦手意識を克服して基本的な内容でつまずく生徒が減ってきている。しかし、難しい内容や計算が多く複雑な内容になると、すぐに投げ出す生徒が少なくない。</p> <p>[対策] 考える授業や活動のある授業を展開し、学習意欲の向上を図り、難しい内容や計算が複雑な内容は、指導法を工夫して生徒にわかりやすく教えて、生徒の実態に沿った授業を展開して定着を図りたい。クラスでの学力差が大きく、コース別・習熟度別編制をして授業を展開した学年もある。情意面では少しずつ気持ちが上向いてきているので、それが学力向上につながってくれればと思う。</p>

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・科学や科学技術に興味・関心をもつ生徒の育成に努める。 ・基礎基本の定着に努め、基礎学力の向上を図るとともに、進学にも対応できる学力を養う。
現 状	<p>身近な自然現象に興味を持つなど、もともとは好奇心旺盛だった様子がうかがえる生徒もいるが知識の定着までには繋がらず、中学校卒業までに身につけるべき基礎学力が不足している生徒が多い。「正解でなければ答えない」「不安があれば分からないの一言で済ませる」傾向が見られる。分かる、できるという自信や自尊心を持たせられるよう指導する必要がある。</p>
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組みを大切にし、基礎基本の定着を図るとともに、大学入試レベルの内容にも取り組ませる。 ・グループ活動等を通して自然科学への興味・関心を高め、学習活動に意欲的に取り組ませる。
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごと等で振り返りの時間を設定し、学習内容を確認することで定着を図る。また、入試レベルの問題にも取り組み、日常のしっかりした取り組みで進学にも対応できることを実感させる。 ・身近な科学事象を取り上げながら生徒に興味を持たせ、レポート作成や他者との話し合いの中で、それぞれの考えを深められるよう授業を展開する。また、考查問題や評価方法を工夫し、日常の学習活動やレポート課題等の提出状況を成績に反映させる。
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の区切りごとに Forms による振り返り問題を用いて復習を行った。また、定期考査の一部に模試を元にした問題を出題し、入試レベルの問題にも取り組ませた。 ・眼の盲斑の大きさの測定など身体に関する実験や身近な物質についての実験を行った。また、プラスチックの性質や世界のバイオームについて、ICT を用いたレポート作成やその資料に基づくグループ発表を行った。
達成状況 (1～2月記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生では振り返り問題の正答率に若干の上昇傾向が見られた。入試レベルの問題の正答率は他の問題よりも低い傾向があり、進学へ対応するためには個別補習等の対応が必要な状況である。 ・実験や発表資料作りに協力して主体的に取り組む生徒が多かったが、それに無関係と思われる行動に終始している生徒も数名見られた。全ての生徒に学習活動に意欲的に取り組ませるには、さらなる工夫が必要な状況である。
4年度の課題及び5年度の具体的対策	<p>[課題] 学習活動に協力して主体的に取り組む生徒が多くいる反面、学習内容に興味を持たず、内容の理解に苦しむ生徒も見られる。また、数的処理が苦手な生徒も多い。そのような生徒の科学への興味・関心を高め、全体の学力向上を図る必要があると思われる。</p> <p>[対策] 身近な科学事象を取り上げながら生徒に興味を持たせる工夫を継続する必要がある。また、手順や結果が分かりやすい実験を通して成功体験を増やすことで学習への興味・関心を高めたい。また、振り返り問題による復習を継続的に行いつつ数的処理にも挑戦させ、学習内容の定着や学力向上に努めたい。</p>

評価領域	保健体育科
------	-------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 運動の特性に応じた技能や健康の保持増進に関する知識を身に付けさせる。 2 運動や健康についての課題を発見し、解決を目指して協働的に取り組むことができる生徒を育成する。 3 主体的に学びに取り組み、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎となる知識や技能が身に付いていない生徒が多い。 ・アレルギー体質や薬を服用している生徒が増えてきている。 ・保健授業は積極的に発言する生徒が少なく、学習内容をノート等に整理することが困難な生徒がいる。
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎的な知識と技能の習得に対する意識を向上させるために、パフォーマンステストを活用する。 2 実生活における課題を認識させ、その解決用法について協働的に考えさせる。 3 基本的な生活習慣に関する意識を向上させ、学んだことを実生活において実践させる。
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習の単元ごとに課題を設定し、単元の終わりにパフォーマンステストを実施する。 2 自身の課題を発見するための活動を行うとともに、課題解決型の学習を取り入れる。 3 ロールプレイングなど、知識を活用させる学習を実践する。
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1 知識・技能の習熟度を確認するために、スキルテストやミニテストを単元や学期の区切りに合わせて実施した。 2 自身の学習や生活を振り返り、課題を発見させる時間を設定した。自身の課題はシートに記入させ、単元や授業を通して意識させた。 3 簡単な場面を設定したケーススタディーやポスターの作成など学んだ知識を活用させる活動を行った。
達成状況 (1～2月記載)	<p>パフォーマンステストを活用することで生徒が学習課題を明確にして、活動することができた。また、パフォーマンステストを実施したことで、評価の機会や方法が増え、評価の妥当性が高まったと感じた。</p> <p>課題を発見し解決を目指すというプロセスについては、生徒が自身で考え解決するということにつなげるまでには至らなかった。</p> <p>知識を活用させる学習活動については、およそ2時間に1回は学習に組み込んだ。</p>
4年度の課題及び5年度の具体的対策	<p>〔課題〕 妥当性が授業において、課題を発見し解決を目指すというプロセスについては、生徒が自身で考え解決するということにつなげるまでには至らなかった。また、体育における運動量の確保も課題としてあげられる。</p> <p>〔対策〕 次年度も引き続き、「課題発見」「課題解決」のプロセスを意識した授業づくりを進めていきたい。また、運動量確保のため、準備運動や補強運動の改善を進めていきたいと思う。</p>

評価領域	芸術科
------	-----

重点目標	様々な音楽活動を通して、生活や社会の中の音楽や音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する。
現 状	中学校までに学習している楽典（記号や楽譜の読み方）や楽器の奏法はあまり身につけていないことが多いが、歌唱・器楽・鑑賞のいずれもポップス以外の音楽に対してやや消極的である点を除けばおおよそ前向きに取り組むことができる。自発的に表現を工夫することが難しい生徒が多い。
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 意図に基づいて表現するための技能を身に付けさせる。 2 表現を工夫したり、様々な音楽のよさを深く味わったりすることができるようにする。 3 生涯にわたり音楽を愛好する心情を育む。
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 一人一人に技術指導を十分に行う。 2 様々な表現を提示したり、表現の根拠を話し合ったりする活動を大切にする。 3 表現の楽しさを感じられるような教材を工夫するとともに、互いに教え合ったり意見を共有したりする場面を多く設定する。
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	生徒にとってあまり関心の高くない古典的な題材の表現活動は、作品の内容を時間をかけて伝え、丁寧に技術指導することにより魅力を感じ取りさせるように取り組んでいる。創作活動ではタブレットを使用し、身近なものとして着手できるようにしている。器楽はギターを中心に、基本的な奏法の定着を旨とするともに美しい音色作りに重点を置き、弾いていて楽しさを感じられるように心がけている。
達成状況 (1～2月記載)	表現する喜びを感じさせることを第一に考え、生徒の表現を肯定的に受け止めて高めることを繰り返した結果、1年間で積極的に表現しようとする生徒が増えてきたように思う。表現意図を言葉で説明するのが難しい生徒もいるが、代弁することで表現がより明確になることも多かった。具体的には、クラスのほぼ全員が難易度の高い古典歌曲を歌えるようになったり、ギターの古典的な独奏曲を1曲通して弾けるようになったりするなど、確実に力を伸ばしていることが感じられる。
4年度の課題及び5年度の具体的対策	生徒同士で教え合ったり、批評し合ったりすることで新たな発見や刺激が得られる場面がみられたので、グループ活動や話し合い活動を効果的に取り入れて学びが広がる工夫をしていきたい。

評価領域	英語科
------	-----

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒が主体的・協働的に学習に取り組み、基礎学力の定着を目指す。 2 実践的コミュニケーション能力を高める。
現 状	基礎的な知識が十分定着しておらず、英語に対する強い苦手意識をもつ生徒が多い。また、家庭学習の習慣が十分身につけていない。
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 ペアワーク等を通じて、協働的に教え合うことができる。 2 基礎的事項の理解を徹底させ、自信をもって英語を発音できるようになる。 3 パフォーマンステストを定期的に行い、実践的な英語を身につける。
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 教科書の内容を生徒にとって身近な話題と関連づけ、興味・関心をもたせる。 2 スモールステップで学習を進め、生徒に達成感をもたせる。 3 ペアワークやグループワークなどを取り入れ、生徒が発話し、学び合う活動を増やす。 4スピーキングテストを定期的に行う。
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1 教科書の内容と関連させた自己表現活動を随時行った。 2 中学校の内容の学び直しや高校での既習内容を繰り返しながら、授業を進めている。また、TTを実施しきめ細かく指導した。 3 ペアワークやグループワークを取り入れ、お互いに教え合いながら4技能にわたる活動を進めた。 4 A L Tの協力を得て、全学年でスピーキングテストを実施した。
達成状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1 自己表現することを楽しむ雰囲気が出てきたと感じる。今後も生徒が表現したくなるような課題を設定し、取り組ませたい。 2 スモールステップで、しかも理解が十分でない生徒には時間をかけて個別指導をすることができ、基礎事項の定着に繋がっている。 3 今年度はペアやグループで内容理解することに挑戦した。コミュニケーションをとりながら協力し、補い合おうとする姿勢が見られた。
4年度の課題及び5年度の具体的対策	<p>[課題] 新カリキュラムへの移行を行うと同時に、学年間や個々の英語力の差に対応した指導を行わなければならない。</p> <p>[対策] 複数の担当者が多くの授業に入り授業についてこられない生徒へのフォローを行うと同時に、意欲の高い生徒には発展的な内容の課題を準備し、英語検定に挑戦させる。</p>

重点目標	生活面での自立ならびに家庭生活を営むために必要な基本的知識と技術を身につけ、主体的・協力的に家庭や地域の生活に生かす実践的な態度を育てる。
現 状	学習では実習等に苦手意識を持っており自信のない生徒が多いが、意欲的に取り組む生徒がほとんどである。1年生は内容や指示の理解に時間がかかるが、真面目に粘り強く取り組む生徒が多い。2、3年生のライフデザインコースでは、苦手なことでも前向きに努力し、仲間と協力しあいがら取り組んでいる。学習したことを積極的に生活に生かそうとする生徒はわずかである。
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の実態に即した教材やICTを活用し、興味・関心を高める。 2 実習や演習などの体験的・課題解決的学習を通して、主体的・協働的な態度を育成する。 3 資格取得に力を入れ、達成感を味わうことができるようにする。
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の実態に即した教材を精選する。探求活動や発表、評価の他基礎技能動画や模擬体験などにICTを有効活用する。 2 実習や演習などの体験的学習を各単元で実施し、学習を通して主体性と協調性を育成する。 3 検定試験や資格取得に向けた学習を通し自信や成長につなげる。
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1 各学年の生徒の実態に応じた教材を精選した。各科目においてタブレットや電子黒板を活用したバラエティ豊かな教材に取り組むことができた。 2 各科目で実験や実習、グループワークやペアワーク、発表を適宜取り入れ、生徒が主体的に取り組む場面を多く取り入れた。校外実習は、受け入れ先の施設側に理解を頂いた上で、実習日時と内容等に関して十分に連絡を取り合い、予定通りに実施できた。 3 検定試験や資格取得に向けて計画的に取り組むことができた。
達成状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の実態に即した教材を精選し、基礎的知識と技術の習得を目標として取り組んできた。タブレットや電子黒板を活用した授業を適宜実施することで、授業への興味や関心を高められたと思う。 2 自分の考えを一定の知識とそれに、グループで意見をまとめ、発表するといった活動は計画通りにならないこともあり、柔軟に対応しなければならぬ時もある。しかし、さまざまな形態の体験的学習活動を複数回実施することで、協調性、主体的な発言、発表態度等において、生徒の確実な成長を実感している。生徒の自立に向けた学習として有効と考えている。 3 授業内容と検定内容をしっかりとリンクさせながら、知識と技術が結びつくように何度も練習を行った。苦手意識があった生徒も練習を重ねることで、自信をつけ検定に臨むことができた。
4年度の課題及び5年度の具体的対策	<p>[課題] 授業への意欲を高めて持続させることと、単元のバランスとタブレットを活用した教材の精選が課題である。</p> <p>[対策] グループワークや実験・実習等を適宜取り入れ、生徒が主体的に参加する体験型の授業を今後も意識していきたい。また電子教材研究をさらに進め、より生徒の実態に即すようにしていきたい。さらに将来、自立して生きるための力を身につけることができるよう改善を加えながら継続していきたい。</p>

重点目標	福祉に関する基礎的な知識と技術を習得し、福祉の心を育成する。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフデザインコース3年生の受講科目である。実習等に積極的に取り組む生徒が多い。 ・異なる年齢層の人との関わりが苦手な生徒がいる。 ・礼儀正しく、自信を持って行動できる生徒を育成する必要がある。
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 おもいやりの心を育てると共に、主体的、協力的な態度を育成する。 2 地域と連携した実践的な学びを充実させて理解を深め、効果的な授業を展開する。 3 ICTを活用し、自主的に問題を解決出来る能力の育成を図る。
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 様々な体験活動や多くの人との関わりから人の気持ちを思いやることの大切さに気付きを持たせ、思いやりの心を育てる。 2 地域の施設等の協力を得て、各単元において複数回の校外実習を実施する。 3 探求活動や発表の他、記録や自己評価等にICTを有効活用し、自主的に問題を解決する能力を育成する。
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉協議会による実習、社会人講師活用事業など地域の人材を活用して専門的な授業ができた。入浴介護実習では、生徒がモデルとなって入浴介助や足浴を体験することで、介助の実際を確認することができた。介護福祉士の授業では、コミュニケーション術、ボディメカニクス、車いす実習、排泄、食事介助、認知症サポーター養成講座など、盛りだくさんのプログラムで授業することができた。 2 施設は1か所、全2回の実習となった。実習内容も利用者の方との触れ合いは叶わなかったものの、施設の説明や、車いすの清掃であったが、生徒達は一生懸命取り組んでくれた。利用者の方の喜ぶ声を後に聴き、生徒に届けることができた。 3 調べ学習や実習の記録、自己評価などに加え、授業のまとめに問題作成を行い、それぞれに解き合ったり、手話の読み取り練習に動画を利用したりした。
達成状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1 コロナ禍にもかかわらず、社会人講師の方のご協力により例年通り多くの校内実習を実施できた。社会人の方との講義を通してより専門的で盛り沢山のプログラムで授業することができた。 2 コロナウイルス感染症のため、実習は例年通りとはいかず、今年度も1か所のみの実習となった。利用者の方との触れ合いについても規制があり残念ではあったが、施設の方と実習内容について話し合いを重ね、実施につなげることができた。実習依頼から、マナー指導、生徒の礼状作成まで準備は大変であったが、実りある授業となった。 3 ICTを用いたことで生徒は考えを深めることができ、まとめや発表も自信をもって行えるようになってきた。また動画により、それぞれのレベルに合わせた問題演習を行うことができた。
4年度の課題及び5年度の具体的な対策	<p>〔課題〕 校外実習は、コロナ禍により生徒の実習機会が1施設失われたことが残念であった。受け入れてくださった施設との複数回の交渉・生徒への事前・事後指導・教師側の事前準備等の負担が大きかった。校内実習に関しては、福祉用具の不足や準備等実習に制限がある。さらに生徒の主体性を養うためのICTの活用を含めた授業の工夫と教材の精選が今後も必要である。</p> <p>〔対策〕 今後も実習制限がどの程度まで落ち着くのか不透明であるが、対策を十分に行っていきたい。校外実習は、学校外の場所で、様々な方と触れあう体験活動を通して自ら気付き学ぶ貴重な活動である。実りある実習ができるように早い時期からの生徒への指導・教師側の準備を行って意識を高めていきたい。校内実習においては、1人ひとりが実習に関わることができるよう少人数制で指導しているが、授業で得た知識が確認できるよう今後も教材や実験・実習の精選にあたりたい。</p>

評価領域	商業科
------	-----

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 商業科目に興味を持たせ、経済社会の一員としての基礎的・基本的な知識と技術の定着を図る。 2 経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。 3 ビジネスマンとしての立ち振る舞いを意識し、実践させる。
現 状	非常に一生懸命取り組んでいる。自分の目標を明確にして、達成できるように常に向上心を持ち、理解しようとしている。資格取得の意義と大切さを理解し、合格しようという強い気持ちが見られる。
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 指導方法の工夫に加え、学習の手段として資格取得に積極的に挑戦させる。補習・個別指導を充実させる。 2 問題を明確にし、自ら考え、実践する態度を養う。 3 ビジネスに対する心構えや倫理観を育成するため、毎時の授業でルール・マナーを徹底し、整容面も正させる。
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎・基本を定着させるため、確認問題をこまめに実施し、家庭学習や振り返りの教材を提供する。 2 課題研究等で、疑問・問題を自ら見つけ出すことを意識させ、解決手段を考えることができるような授業展開する。 3 授業開始時の整容指導を徹底すると同時に、なぜマナーや整容面を正すのかを考えさせ、自発的に行動できるように促す。
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1 タブレットを使った確認問題や動画の教材を見せたり紹介するなどした。休業中に具体的な目標（検定試験）に合わせた課題を実施した。 2 商業科目の内容を総合的に捉え、望ましいビジネスの考え方や方法を考えさせる機会を多く作った。 3 授業時の挨拶を徹底し、全員が揃うまで、何度も繰り返し行った。
達成状況 (1～2月記載)	<p>確認問題や動画は楽しみながら取り組んでくれた。休業中の課題も、期限を守りしっかりと取り組んでいた。資格取得は全員すべて合格とならなかったが、とても惜しい結果であった。</p> <p>商業科目の内容を総合的に捉え、ビジネスプランをグループや個人で考え、発表したり、改善点を見つけるなどすることができるようになった。</p>
4年度の課題及び5年度の具体的な対策	<p>[課題] 少ない単位数で数多くの資格に挑戦しているので余裕がなくなってしまう。特に理解するのに時間がかかる生徒に対する時数が足りない。全体的に授業の取組状況は良いが、グループや他者と共同で作業を行っているときはうまくいくが、定期考査や検定試験で一人で問題を解く場面では、その成果が出せない。</p> <p>[対策] 授業内で小テストや模擬問題を行い、自身を持たせながら自発的な学習につなげる。長期休業中以外にも課題に取り組ませる機会を作り、繰り返し学習を習慣づける。理解するのに時間がかかる生徒には補習を行ったり、別課題を与えたりしながら知識の定着に努める。</p>

評価領域	情報科
------	-----

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会との関わりについて理解を深める。 2 様々な事象を情報とその結びつきをとって捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 3 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。
現 状	<p>筆記用具や教科書・プリント、ログインなど、授業の準備を整えられない生徒が複数いるため、こまめな声掛けが必要である。コンピュータ操作に興味を持って、入力練習などには積極的に取り組んでいる。自分の意見を積極的に発表できる生徒が多い。</p>
具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 コンピュータやデータの活用について理解を深め、学んだことをあらゆる場面で活用させる。 2 身近な事象を情報と結びつけて、情報技術を適切かつ効果的に活用する能力を高める。 3 教材を工夫し、達成感を味わうことができるようにする。
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 いろいろなソフトの基本的な操作を身に付けさせ、場面にあった活用ができるように、考えさせる。 2 情報化の光と影の両面から情報社会を理解させ、必要なルールや心構え、情報を扱う責任について考え活用させる。 3 基礎・基本をしっかり身に付けられる教材を精選し、達成感を持たせる。
具体的な取り組み状況 (1～2月記載)	<ol style="list-style-type: none"> 1 他教科と連携することで、いろいろなソフトの基本的な操作を体験し、P Cとタブレットの互換性なども説明しながら活用させた。 2 情報社会の内容については、Web コンテンツを活用したり身近な例を挙げ、他者と話し合いながら意見をまとめ発表する機会を作ることができた。 3 個々の能力差が大きいので、実技の教材に関して、完成度の違うものを用意して、誰もが最後は完成できるように工夫した。
達成状況 (1～2月記載)	<p>毎時間のタイピング練習を記録させ、自分自身の成長が目に見える形にしたことにより、パソコンに対する苦手意識がなくなり自信を持つようになった。情報の扱い方について、状況にあった判断をしっかりと発表する事ができるようになった。タブレットを使った授業では、いろいろな操作を試しながら自分なりの表現をすることができた。</p>
4年度の課題及び5年度の具体的対策	<p>[課題] 目標については概ね達成しているが、今年度から科目内容が変更になり、深く学べない単元があった。アプリケーションソフトの基本的な使い方については、現在の情報Ⅰの内容から外れているが、総探や地域探究で使うため、授業で補う必要があり、さらに授業の内容を逼迫させている。</p> <p>[対策] 長期休業中の課題や予習として、科目の内容を一部のオンライン講座で実施するなど、工夫が必要である。 総探や地域探究の担当者と年間計画を確認する必要がある。</p>